

# 龍源寺報

秋彼岸号

臨濟宗・妙心寺派  
住職 松原信樹  
佛母寺住職 松原覺樹  
正福寺住職 松原行樹  
TEL 3451-1853  
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryugenji.com

URL: <http://www.ryugenji.com>

## 秋彼岸におもう

松原泰道和尚は、晩年、「生きつつあることは、死につつあることだ」と言っていた。はじめは、私自身、何となく耳にしていた言葉だったが、最近この言葉に重みを感じるようになった。当時は、百歳を過ぎた老僧の言葉だったので、生と死が、純粹に止揚されたのだと考えていた。

普段、健康な体で生活をしていると、当然のことであるが、生きていくことについては、意識している。しかし、「死」については、元気でいれば、何も意識していない。私達は、「生」については、色々解っていることがあるけれど、「死」については何も解っていない。ここで、泰道和尚が言っていた「生きつつあることは、死につつあることだ」ということをよく考えてみると、私達が生きていくということは、生きていく「生」だけが単純に進んでいるようにみえるけれど、実は、「死」も「生」と表裏一体になって進んでいると解釈できる。そして、時間の中心が「今・今・今」と進んでいる。禅は、今・此処を見ていく。ノートダルム清心学園の渡辺和子先生は、「置かれた場所で咲きなさい」と、端的に表現している。

人間は、そもそも非力であって、人生において

間違いを犯しやすく、また、決して完璧でなく、それどころか多くの場合、不運、挫折、苦しみに見舞われる。不器用で要領の悪い私がいい例だ。けれども、そうした中で、自分の人生を一生懸命に生きようとするところにこそ、人間らしさがあるのではないか。そして、そのような中に真実があるのではないか。

かつて私は、後輩と仕事をしていた経験がある。ところが、後輩に仕事を与えても、何かしつくりこない。「どうしたの?」と聞くと、「どのようにしていいか聞いていません」とか、「手本を見せてください」という。これは、教えられたとおりになれば無駄な失敗はしなくてすむということなのだろうか。失敗した経験から多くを学習し、次へとつなげていくことが大切なのに。彼は失敗の経験を逃避して、どうするのだろうか。

禅は、生きる主体としての自己の立場に立ち、深く人生を考え、自己を探求するものである。壁にぶち当たり、なかなか進めない、思うように解決できず、どうにもならない、そして、挫折してしまいそうな場面に直面してこそ、本当の自分がわかるのである。泰道和尚の「人間は窮地に立たされたときにチャンスなんだ」という言葉が私の脳裏から離れない。

## 秋ひがん法要

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、九月二十二日・秋分の日（午前十一時より）

一、読経

一、法話

一、齋座（おとき）

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

### 龍源寺への交通の便（地下鉄）

- 都営三田線（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

### 龍源寺への交通の便（都バス）

- 田 87 渋谷駅 — 田町駅 魚ラン坂下下車
- 都 06 渋谷駅 — 新橋駅 古川橋下車
- 品 97 品川駅 — 新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反 96 五反田駅 — 品川駅 — 六本木ヒルズ（循環）  
魚ラン坂下・古川橋下車
- 東 98 東京駅丸の内南口 — 目黒駅 魚ラン坂下下車

### \* 経蔵建立のこと

泰道和尚から三代続く境内整備の事業を引き続き私の代でも継承し、将来は、境内の一角に『大般若経』を納める経蔵を建立したいと思っております。『大般若経』を納める所以は、泰道師・哲明師が、『般若心経』を説き続けてきたことによります。『大般若経』の写経も順調に進んでおります。ご寄進はその基金にさせていただきます。

龍源寺の定例会 禅の会・TKC坐禅会・仏像を彫る会

禅の会（坐禅体験）

指導：松原信樹

定例日：毎月第一土曜日（一月は別途）

時間（二回）：午前十時～十二時、

午後一時三十分～

三時三十分

内容：坐禅とお話

会費：来会の時二百円

その他：晩夏又は初秋に北軽井沢・日

月庵でも開催

参加者は、サラリーマンの方・女性の方・学生・会社の社長さん様々です。大体八十～百人位。

年二回春と秋に行われる軽井沢「作務の会」も長年にわたる恒例行事のひとつです。

TKC坐禅会

指導：松原信樹

定例日：毎月第一土曜日

時間：午前八時～九時

会費：千円

第一土曜日の朝八時から読経、坐禅をし、お話をします。

TKCとは税理士さんのグループで、皆さん熱心に坐禅をされております。

仏像を彫る会

指導：三木童心

定例日：毎月第二土曜日、第四土曜日

時間：午前十時三十分～

十二時三十分（初心者）、

午後一時三十分～四時

会場：龍源寺花園会館

会費：二千円

北軽井沢・日月庵「禅の会」

北軽井沢日月庵坐禅堂にて毎年恒例の「禅の会」を開催いたします。秋の日月庵禅の会は、作務（布団の整理・枝打ちなど）・坐禅・そして、ささやかな親睦会を行います。坐禅の時間は、さほどとれませんが、坐禅初心者の方にはよろしい機会かと思えます。万障お繰り合わせの上、是非ご参加いただければと思います。

日時：平成二十四年十月二十七日（土曜日）

～二十八日（日曜日）一泊二日

日月庵に現地集合・現地解散

十月二十七日：

午前十一時、星雲苑研修所集合

※昼食は持参してください。

十月二十八日：午前十時頃解散

持ち物：シートとタオル二枚

所在地：群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

日月庵坐禅堂

電話番号：〇二七九―八四―四二〇六

費用：宿泊費・食費無料

柳 緑

花 紅

秋のお彼岸会を迎えます。  
七月十日のお施餓鬼の日には、酷暑の中、御来山いただきありがとうございます。師父・哲明和尚が病床

で書いた書きかけの草稿を出版した『かわかない心 母の教え、禅的生き方―松原哲明遺稿集』を、哲明和尚「遺品」として、七月十日のお施餓鬼の日にお檀家さまにお渡しすることができなかつたお檀家様にお渡ししたいと思っております。お申し出ください。▼お檀家様で、お葬式をだされる場合、知つている葬儀社がない方は、葬儀社を紹介させていただきます。いざ、ご家族が亡くなると、なすべき事がたくさんありすぎて、慌ただしいのが現状です。仏事に慣れている僧侶の私でさえ、非常に慌ただしい体験をしました。もし、お葬式をだされる場合、僧侶がいなるとお葬式ができないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺にお電話を入れていただきたいと思ひます。龍源寺本堂も

しくは、花園会館を使用してお葬式・家族葬・密葬も執り行うことができます。(本堂・花園会館使用の際は、指定業者となります。)又、生前のご相談も受けさせていただきます▼渋谷区広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を気にしなくてもよい永代供養塔です。龍源寺の規則を守つていただければ、どなたでもこのお墓を使用できます。▼北軽井沢の日月庵坐禅堂は、八月中、毎年恒例の研修を行いました。少しずつ充実させていきたいと思ひます。十月の北軽井沢も好きです。お掃除の会を行いますので、ご参加いただけたら大変嬉しく思ひます。▼人前でお話することが苦手なのに何故か、お話しすることが多くなりました。カルチャーセンターでの講義は、急逝した父・哲明のワンポイントリリーフのつもりでした。お話しをする前、緊張している私に、「緊張するなんていい神経している。緊張しないなんてろくなやつじゃない。」と言つてくれた先輩の言葉が心に残つています。常に初心の

心を大切にしていきたいと思ひます。▼母は、本当に忙しい毎日を送つています。『論語』学而第一に「三年の喪が明けるとまで、父が定めた家のありかたはそのままにしておく」(三年無改於父之道、可謂孝矣。)とあります。私自身も、二年・三回忌まで、家やお寺を父が居たそのままの環境にしておりました。そしたら、少しずつ母も元氣を取り戻してきたようです。『論語』の言うことは本当だと実感しました。▼アメリカ在住の弟の覺樹が家族を連れて三週間ほど龍源寺に滞在しておりました。すでにもう、父親の顔になつており、彼のお嫁さんに感謝しております。もう一人の弟の行樹のお寺は、八月のお盆ということで、大変忙しくしておりました。彼も家庭と仕事を大切にしています。▼九月二十二日の秋彼岸の日に御齋のちらしずしを作ります。前日の午後から野菜の刻みをします。お手伝いに来ていただける方がいらつしゃいましたらお願い申し上げます。▼皆様にお会いできるのを楽しみにしております。(信樹)